

々遅滞ナク先ツ電話ヲ以テ貴部ニ通告セシメタルハ既ニ御
承知ノ通ニ有之候此段照覆得貴意候 敬具

大正十一年十一月二十七日

日本帝國特命全權公使 小幡西吉

支那共和国外交總長 顧維鈞殿

事項五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ關スル件

一六〇 六月十九日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

二十一箇條問題ニ關シテハ中國側ニ對シ斷乎
タル態度ヲ以テ応酬セラレ度旨訓令ノ件

附記

大正十年十月十三日閣議決定ノ一部

華府會議日本代表ニ對スル一般訓令中ノ中國問
題ニ關スル部分摘録

極秘

所謂二十一ヶ條問題ニ付テハ帝國政府ハ最初ヨリ華府會議
ニ於テ其ノ討議ヲ為スコトヲ承認セズ既ニ華府會議全權ニ
對スル訓令ニ其ノ意ヲ明カニシ我カ全權ニ於テモ此ノ趣旨
ヲ以テ會議ニ臨ミ所謂第五項ニ關スル保留ヲ拋棄シ南滿洲
及東部内蒙古ニ於ケル鐵道借款並ニ課稅担保ノ借款ヲ國際
財業團ニ開放シ且ツ南滿洲ニ於ケル政治財政軍事警察ノ顧
問教官ニ關スル優先權ヲ拋棄シタル外日支交渉ノ結果成立
シタル條約其他ニ付テハ何等其ノ變更ヲ許サザル態度ヲ執
リタリ

然ルニ最近ノ風説ニ拠レバ支那側ノ一部殊ニ旧國會議員中

五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ關スル件

其ノ年来ノ主張タル日支交渉無効説ヲ貫徹スル為露西亞ニ
對スル關東州租借期限満了期タル明一九二三年ヲ期シ日本
ニ對シ關東州ノ還附ヲ請求セムトスルノ議アリトノコトナ
リ其ノ真偽素ヨリ明確ナラザルノミナラズ外國側殊ニ米國
ニ於テハ現政府ノ存続スル限り仮令支那政府ヨリ右ノ如キ
提議ヲ為スモ之ヲ支援スベシトハ思考セラレザルモ顧維鈞
ガ最近財政委員會長トシテ北京ニ居据ハル模様ニ付或ハ同
人等ニ於テ他同志ト相策応シ内外ニ對シ何等画策ヲ廻ラス
コトナキヲ保セズ何レニスルモ之ニ對シ我方ニ於テモ相当
考慮ヲ遂ゲ置クハ無用ニ非ズト認メラルル処我對支政策ハ
公正寛容日支融和ヲ以テ其ノ大方針トナシ特ニ華府會議以
來着々其ノ實現ヲ期シ現ニ山東問題ニ付最モ能ク之ヲ表示
シツツアル次第ナルモ關東州租借地期限問題ノ如キ此上二
十一ヶ條問題ニ關シ讓歩ノ余地ナキハ言ヲ俟タザル所ニシ
テ從テ今日ヨリ我ニ於テ斷然タル態度ヲ持シ苟モ支那側ニ
對シテ此辺ノ希望ヲ繋ガシメ又ハ虚偽ニ乘ゼシメザル様措
置スルコト差向必要ナリト思考ス

一六〇

就テハ貴官ハ所謂二十一ヶ条問題ニ付支那側ヨリ探ヲ入ルルガ如キ場合ニハ断然タル態度ヲ示サレ此ノ点ニ付先方ヲシテ誤解ヲ抱カシメザル様可然応酬アリタシ
本電訓令トシテ上海、天津、奉天、漢口、広東へ転電アリタシ（本電欧米各大使へ転電セラレタリ）

註 所謂二十一箇条問題ニ関シテハ日本外交文書大正三年第三冊五六八文書及同右大正四年第三冊上巻四七三文書ノ附記参照

（附記）

大正十年十月十三日閣議決定ノ一部

華府會議日本代表ニ対スル一般訓令中ノ中国問題ニ関スル部分摘録

第四、支那問題

（甲）會議ニ於テ進シテ主張スヘキ事項

支那問題ニ関シテハ特ニ帝國ニ於テ他國ト異ナリ緊切ノ關係ヲ有スルヲ以テ今回會議ニ於テ最モ重キヲ置クヘキ中心問題竝ニ之ニ対スル我方針ニ付テハ深く考慮ヲ要スル処左記ノ方針中（一）支那現在ノ政情不安定ノ事實及之カ為メ隣邦ノ適切ニ感スル不安ノ次第竝ニ支那ノ平和の進歩ノ助成ニ対シ我帝國ノ協力スヘキ衷心ノ好意ヲ陳陳セラレタク將又

（一）支那ノ領土保全、機會均等、門戸開放ノ主義ヲ尊重スルコトハ帝國既定ノ方針ニシテ右（一）ト關聯シ適宜聲明セラレ差支ナク次ニ（二）支那自身ノ開放ハ會議ノ情勢ニ応シ提唱セラレタシ尚支那カ會議ニ於テ日本既往ノ対支態度ニ対シ種々非難中傷ヲ加フルカ如キ場合ニハ篤ト弁明ヲ加フルノミナラス支那ニ於ケル行政、財政、司法其他一般政況乃至政情ノ実状ヲ詳細説明スルノ必要アルヘシ

一、支那ニ於ケル現在ノ政情安定ヲ図リ且ツ将来ノ福祉増進ノ為メ文化及經濟の両方面ヨリ其ノ平和の進歩ノ助成ヲ図ルコト

（イ）政情不安定ノ事蹟ヲ陳陳スルコト

政情安定ハ支那自身ノ行フヘキ処ニシテ今回會議ノ機會ニ於テ参列國ト協調シテ篤ト支那ノ反省ヲ促スノ措置ヲ講スルコト

（ロ）平和の進歩助成ノ方法

（ハ）文化的方面

各國共同シテ支那文化施設ノ進歩發達ヲ援助スルノ措置ヲ講スルコト從テ自然匪事件賠償金処分方ニ関シ提議ヲ見ルコトアルヘク此ノ場合ニハ帝國ハ該

償金ヲ本項ノ如キ文化的施設ニ充當スルノ意向アル旨聲明セラレ差支ナシ但シ本問題ニ付テハ英、仏、伊等ノ意向判明セサル次第第二モアリ旁々帝國トシテハ是等諸國ヲ強テ勸奨スルカ如キ態度ニ出ツルハ避ケタキコト

（ニ）經濟的方面

新借款團又ハ其他ノ方法ニ依リ支那ノ經濟的改造及交通改善ノ企画ヲ援助シ以テ支那ノ經濟的能率ノ増進ニ資スルコト

二、支那ノ領土保全、門戸開放、機會均等ノ主義ヲ尊重スルコト

本主義ヲ恪守スルコトハ已ニ各國間ノ條約乃至各國ノ聲明ニヨリ已定ノ方針ナリ

三、支那自身ノ開放即チ支那ニ於ケル排外的若クハ閉鎖的施設ノ如キ世界文化ノ趨勢ニ伴ハサル施設ハ之ヲ撤廃スルコト（鉄鉞閉鎖、防穀令、内地閉鎖等ノ如シ）

但シ日本ヨリ之ヲ主張スルニ当リ日本ハ支那ノ閉鎖ヲ云為スルモ畢竟スルニ其ノ主眼トスル処ハ支那ノ資源ヲ開發シテ日本独リ其ノ利益ニ浴セムコトヲ期スルモノナル

カ如キ疑惑ヲ与ヘサル様之カ提唱ノ時機方法ニ付テハ深甚ノ注意ヲ要スヘシ

（乙）會議ニ於テ議題トナリタルトキハ一定ノ保障又ハ條件ヲ附スルニアラサレハ賛成シ難キ事項

本項ニ屬スル事項中巴里平和會議ニ於テ帝國全權ヨリ已ニ聲明セル行懸アルモノモアリ又其他ノ事項ト雖モ其趣旨ニ於テ不可ナク從テ正面ヨリ之ニ反對スルカ如キハ之ヲ避クルコト然ルヘシト雖モ翻テ巴里平和會議以後ニ於ケル支那ノ事態ヲ顧ミルニ混乱ノ度益々甚シキヲ加フルノミナラス日本ニ対スル態度亦頗ル好マシカラサルモノアリ此狀勢ヲ以テ推セハ果シテ如何ナル事態ニ到ルヘキヤ逆睹シ難キモノアリ旁々支那又ハ其他ノ國ヨリ本項ニ屬スル事項ヲ提議シタル際ハ各事項ニ関シ将来ニ対スル相当ノ保障ヲ設ケ又ハ條件ヲ附シ以テ後累ヲ貽ササルノ手段ヲ講シタル上同意スル様取計ハレ度シ

一、領事裁判權ノ撤去

領事裁判權ノ撤廢ハ條約上ニモ公約アリ且巴里平和會議以來帝國政府既定方針ノ一ナリ但シ其ノ撤廢ハ支那ニ於ケル司法制度等ノ完備ヲ俟テ始メテ実行セラルヘキモノ

ニ付此ノ点ニ付明確ナル条件ヲ附スルコトヲ要ス

二、在支外国軍隊ノ撤廃

在支外国軍隊ノ撤廃ハ巴里平和會議ニ於テ帝國全權ノ声明セル処ニシテ左ノ諸項ノ通り措置セラレタシ
可成速ニ列國一律北支駐屯軍ヲ撤去スルコトヲ提唱スルコト（但シ漢口派遣隊ハ可成速ニ撤退シ又北滿駐屯部隊ハ浦塩地方撤兵ト共ニ撤退ノ方針ナルコトヲ声明セラレ差支ナシ）

山東ニ於ケル日本ノ軍隊ハ目下山東問題善後措置ニ関シ支那ニ開談シタル次第アルヲ以テ右ニ抛リ措置スルコト
三、在支外国軍港ノ撤廃（日本トシテハ實際問題ナルハ旅順口ナリ）

若シ外國側ニ於テモ撤廃ニ異存ナキニ於テハ我方ニ於テ各國一律撤廃ニ異存ナシ

四、勢力範圍ノ撤廃

支那ニ於ケル勢力範圍撤廃ハ巴里ニ於ケル帝國全權ノ声明セル処ニシテ經濟上ノ勢力範圍問題ハ新借款團ノ成立ニヨリ大部分自然ニ解決ヲ見タルモ今回ノ華府會議ニ於テ更ニ之ヲ明確ニ決定セムトスル場合ニハ各國トモ同一

ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ乍去本件ハ日、英、仏三国共通ノ問題ニシテ若シ英仏ニ於テ進テ本件ノ成立ヲ図ラムトスルカ如キ場合ニハ帝國政府ニ於テモ考量ヲ加フル事トスヘシ

九、支那行政自主權回収問題

支那ニ於ケル關稅、鹽稅、郵政等ハ外國ニ於テ極メテ密接ノ關係ヲ有シ且今日相當ノ成績ヲ挙げ居レルハ全ク外國人ノ協力ニ依ル次第ニ付今直ニ支那側ノ手ニ移スハ却テ本来ノ目的ニ反スル結果ヲ招ク虞アレハ將來支那力之等行政上ノ能力ヲ完備スルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ

十、關稅自主權回収問題

關稅自主權回収問題ハ外國就中日本ノ對支貿易ニ至大ノ關係アリ今後一般ニ支那ニ於ケル稅制整理問題ノ進捗ト相俟チ各方面ニ亘リ十分調査研究ヲ重ヌルコト緊要ニシテ一朝ニシテ能ク決シ得ヘキ問題ニアラス

十一、支那借款鐵道統一問題

支那鐵道國際管理案ハ遽カニ帝國ニ於テ賛同スルコトヲ得サルモ其ノ範圍ヲ借款鐵道ニ限局スル程度ノモノナラ

ニ之ヲ律スヘク即チ英國ノ勢力範圍ト認メラルル揚子江沿岸、仏國ノ一般優先權ヲ有スル廣東、廣西、雲南地方等ニ於ケル排他的主張ヲモ一律撤廃スルヲ要スルコト勿論ナリ但シ滿蒙地方ニ對スル我國防並我國民ノ經濟的生存ニ關スル保障ハ新借款團成立當時既ニ留保セラレ勢力範圍ノ撤廃ニ依テ影響ヲ受クヘキニ非ス

五、在支外国警察官ノ撤退

不開放地ニ於ケル警察官ノ一時的駐在ハ同地方ニ於ケル秩序恢復セラレ外國人ノ生命財產ノ安全確保セラルルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ又開放地ニ於ケル駐在ハ領事裁判權ノ撤廃ニ伴ヒ実行セラルヘキモノナリ

六、在支外国郵便局ノ撤廃

支那ニ於ケル郵便制度改善セラレ外國人ノ通信ノ安全ヲ保障セラルルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ

七、居留地ノ撤廃

内地雜居自由トナリ外國人ノ生命財產ノ安全確保セラルルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ

八、不割讓約定ノ廢棄

支那ノ施政鞏固トナリ自ラ保全スルノ實力ヲ具フルニ至

ハ攻究ノ價值アルモ其實行ノ方法、組織等ハ十分調査ヲ要スヘシ

十二、阿片問題

日本トシテハ既定ノ方針ヲ遂行シ度所存ナルモ最近支那自身盛ニ阿片ヲ栽培シ又ハ哈爾濱、新嘉坡ヨリ密輸セララルル狀勢ナルヲ以テ是等ニ對シ嚴重取締ヲ加フルニ非サレハ禁煙ノ目的ヲ達スルヲ得サルノミナラス公平ヲ欠クノ結果ニ陥ルヘキヲ以テ各國共同シテ一律禁絶ノ措置ニ出ツルコトトシ度シ

（丙）會議ニ於テ變更ヲ許ササル事項

帝國ニ取り重要ノ關係アル已定事實又ハ特定期間限りノ問題力會議ニ於テ審査裁決セラルルカ如キコトニハ同意スルヲ得サルモ會議ノ形勢如何ニヨリテハ之ヲ討議ニ附シ十分帝國ノ立場ト事態ノ真相トヲ説明シ一般ノ諒解ヲ求ムル為メ機宜ノ措置ヲ執ラレ差支ナシ尚此ノ種ノ事項ニ屬スル具體的問題ノ重ナルモノヲ挙クレハ左ノ如シ

一、山東善後措置問題

曩ニ廟議決定ノ措置案大綱ニ基キ更ニ公正寛容ヲ本旨トスル細目案ヲ決定シ閣下等ノ御含迄追テ申進スル処有之

五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ関スル件

ヘキニ付閣下等ハ必要ノ際之ニヨリ帝國ノ立場ヲ説明セラレ差支ナシ

二、大正四年日支條約効力問題

同條約効力其ノモノヲ否認セムトスルカ如キ主張ニハ斷シテ同意スルコトヲ得サルモ會議ノ情勢如何ニ依リテハ或程度迄交譲ノ精神ヲ示スコト必要ナルヘク又討議ノ際応酬上帝國政府ノ意向ヲ知悉シ置カルル方便利ナル点モ有之ヘク旁々本件ニ関スル具体的問題ニ付左記方針御含置ノ上必要ニ応シ可然措置セラレタシ

(イ) 滿蒙ニ於ケル左記優先權ハ之ヲ主張スルノ意思ナキコトヲ説明セラレ差支ナシ

(ハ) 鐵道借款優先權

(ニ) 課稅担保借款優先權

(右二優先權ハ新借款團成立ノ結果事實上消滅ニ歸セルト同様ナリ)

(三) 政治、軍事、財政、警察ノ顧問傭聘優先權

(ロ) 所謂第五号ハ他日ノ商議ニ讓ルヘシトノ留保ハ之ヲ援用スルノ意思ナキコトヲ説明セラレ差支ナシ

三、關東州租借地問題

意見ヲ聴取スルコトニハ強テ反対スルニ及ハス
附、朝鮮問題

今回ノ會議ヲ機トシ朝鮮人中獨立ノ氣勢ヲ揚ケントシテ妄動ヲ試ミ為之場合ニ依リ所謂朝鮮問題ノ會議ニ上議セラルル事ナキヲ保セス如此場合ニハ本問題ノ如キハ附議セラルヘキモノニ非ストシテ直ニ拒斥セラルヘシ

註 右(丙)ノ二ニ大正四年日支條約トハ所謂二十一箇條問題ヲ含ム日中間約定ヲ意味ス

一六一 九月九日 内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛 (電報)

米國大使ノ二十一箇條問題ニ対スル我方ノ態度

度打診ニ関シ通報ノ件

第四九八号

九月六日米國大使來省ノ際本大臣ニ対シ支那ニ於テハ顧維鈞ノ手ニ於テ所謂二十一箇條問題ニ付何等カ計畫ヲ運ラシ居ルモノノ如キ処本件ニ関スル日本ノ態度ハ既ニ華府會議ニ於テ了解セラレ居ル次第ニモアリ支那側ヨリ之ヲ提議スル事アルモ日本トシテハ之ニ取合ハルコトナキモノト推測シ居ル旨述べタルニツキ本大臣ハ若シ支那側ニ於テ右様

五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ関スル件

一六〇

一九四

帝國政府ハ本問題租借期限ニ関スル日支條約ノ規定ヲ翻シ又ハ租借地ヲ還付スルカ如キ提言ニハ到底同意スル能ハス

四、滿鉄(安奉線ヲ含ム)中立乃至回收問題

帝國政府ハ南滿鐵道ノ「ステータス」ヲ變更セムトスルカ如キ提言ニハ到底同意スル能ハス

(丁) 石井「ランシング」協定問題

本協定所謂特殊利益ノ積義ニ関シテハ日米ノ了解ニ相違アルカ如シト雖モ強テ政治的若クハ經濟的何レカニ局限スルノ要ナク畢竟地理的關係ヨリ生スル特殊關係ナリト解スルコト至当ナリ

從テ米國ニシテ之カ廢棄ヲ主張セサル以上何等ノ顧慮ヲ要セス現状ノ儘トシ又同國ニシテ之カ廢棄ヲ主張スルニ於テハ之ニ同意セラレ差支ナシ

(戊) 廣東政府代表者派遣問題

廣東政府ハ未タ諸外國ノ承認ヲ經タルモノニアラサルヲ以テ其ノ代表者ハ今回ノ會議ニ公然參列シ得ヘキ資格ヲ有スルコトナキモ日本ヨリ進テ右資格問題ノ如キヲ主張スルコトハ避ケラレタシ尤モ同代表者ヲ會議ニ招致シ為參考其ノ

ノ提議ヲ為スカ如キコトアラバ日本ノ國論ハ沸騰スベク政府トシテハ嚴然タル態度ヲ以テ之ニ対スルコト勿論ナルベキ旨答ヘタル処同大使ハ首肯シテ引取りタリ同大使トノ問答ハ右ニ止マリ極メテ簡單ナリシモ或ハ何等米國側ニ於テ我方ニ探リヲ入レタルモノニアラズヤトモ思ハルルニ付御參考迄本電在歐各大使ヘ転電アリタシ

一六二 九月十八日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

關東州租借問題ニ関スル謀報者ノ内報報告ノ件

件

機密第四二〇号

大正十一年九月十八日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

關東州租借地問題ニ関スル件

本件ニ関シ當館謀報者カ丁維忠(丁ハ趙秉鈞總理時代ノ秘書長ニシテ目下實業界ニ在ルモ段派及梁士詒派ニ關係アリ)等ヨリ左ノ通り内聞セル趣ナリ

一六一 一六二

一九五

目下関東州租借条約カ明十二年三月ニ於テ二十五年ノ期限ノ尽クルヲ機会トシ日露条約日支条約ノ存在スルヲモ顧ミズ右期限ニ至リ日本ヲシテ関東州租借地ヲ還附セシメントシ目下種々研究中ナルハ確實ニシテ右研究中ニハ英國公使及米國公使モ時々直接又ハ間接ニ關係シ居ルコトモ亦事實ナリ今回英國威海衛ノ租借地還附委員長ニ梁如浩ヲ任命シタルカ梁ハ右還附ノ条件及手續ヲ基礎トシテ関東州還附問題ヲモ研究セントシツツアリ而シテ顧維鈞梁如浩等ノ意見ニテハ威海衛ニシテ愈支那ニ還附スル以上ハ日本ノ関東州ヲ還附スルハ当然ノ結果ナリ何トナレバ膠州灣、威海衛、関東州三地ノ租借ハ全然相關のモノニシテ单独のモノニアラズ既ニ青島ニシテ還附セラレ威海衛ニシテ繼テ還附セラルル以上遼東半島ノミ還附セラレザル理由ナシト云フニ在リ而シテ右遼東半島還附ニ関シテハ英國公使ハ支那ニ對シテ十分ニ内援スヘキ旨密談セリトノコトナリ云々

右情報ノ内容ガ果シテ事實ナルヤ否ヤハ丁維忠ノ現政府反對派系ノ所言ナルニ顧ミ俄カニ信シ難ク更ニ探查ノ要有之殊ニ英米両公使カ支那側援助ニ關係セリトノ点ノ如キハ無

広東、漢口

一六三 十月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

関東州租借問題ニ付テノ黎總統ノ所言ニ関シ

真相電報方訓令ノ件

第五三一号

新聞電報ニ依レバ十月十七日黎總統ハ本邦人記者団ヲ引見シ其ノ質問ニ對シ時局問題ニ對シ意見ヲ發表シタル趣ナルガ其ノ内関東州租借地問題ニ関シ「該半島ガ日支間ノ「アルサス、ローレン」トナラザルコトヲ望ム」云々ノ言アリ租借地問題カ日支間ニ未ダ正式ノ問題トナリ居ラザル今日大總統トシテ斯カル言ヲ弄スルハ聊カ穩当ナラザルヤニ認メラレ議會等ニ於テモ問題トナルコトナキヲ保セザルニ付其ノ真相御確メノ上結果電報アリ度シ

一六四 十月二十五日 在北京坂西中将ヨリ
上原參謀總長宛 (電報)

関東州租借地返還問題ニ関スル米人顧問ノ意

見書ニ付報告ノ件

坂電一〇〇 (十月二十六日接受)

五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ関スル件

根ノ想像說ト思考セラレ又數日前吉田參事官英國公使館「クライブ」參事官ニ関東州租借地回收ニ関スル支那側計畫ノ風説ニ談及シタルニ支那人ハ不可能ノ事ヲ夢想シ居ルモノカナト語リシコト有之候趣ナルモ在支英米人中日支間ノ中傷離間ヲ図ルモノモ有之ニ付該英米人等ハ今後本問題ヲ好材料トスベキコトハ想像スルニ難カラズ候將又最近西田書記官ガ外交部熊秘書ニ別用ニテ話合ノ序ニ「近時新聞紙ニハ時々関東州租借地問題ヲ論スルモノアルモ本件ノ如キハ問題トナラザルニ外交部ニ同問題ノ研究会ヲ設置セリナド伝フルモノアルカ如何ニヤ」ト輕ク問ヒタルニ同秘書ハ本件ハ将来何レ一問題トナルベキヤモ計リ難キモ今日迄外交部内ニハ特別ニ研究会ノ如キモノヲ設置シ居ラズ然ルニ却テ日本新聞ニ北京電報トシテ種々ナル記事掲載セラレ支那言論界ヲシテ注意ヲ喚起セシメ又ハ支那政客ヲシテ本問題ヲ論議セシムルノ感アルガ自分個人トシテハ本問題ニ触ルコトヲ避クヘキコト日支双方ノ為ナリト思考シ居レリト述ベタル趣ニ有之候

右御參考迄此段報告申進候也

本信写送付先 奉天、上海、天津

米人顧問「ファীগソン」ハ関東州租借地返還問題ニ関シ此際支那政府ハ本件ヲ日本ニ提出スルハ華府會議ノ結果当然為スヘキ事項ナリトノ意見書ヲ提出セル由小官ガ去十八日總統ニ面会ノ際「ファীগソン」モ亦居合セ居リ同日モ本意見ヲ述ベタル如ク想像セラル元來本問題ニ就テハ「ラインシュ」ガ支那政府ヲ指導スル筈ナリシモ目下上海ニテ病氣中故「フ」ガ代リテ意見書ヲ提出セルモノナリト尚詳シク探索中

一六五 十月三十日 在北京坂西中将ヨリ
上原參謀總長宛 (電報)

関東州租借地返還問題ニ関スルファীগソン

ノ意見書要点報告ノ件

坂電一〇一

前電「ファীগソン」意見書ノ要点

関東州租借地返還問題ハ日本ハ極力反對スベク交渉ノ前途頗ル困難ナルハ明カナルモ支那政府トシテハ黙スル能ハズ適當ノ機會ニ声明ヲナスヲ要ス其ノ方法ハ公文主義ヲトリ華府會議ノ原則ニ則リ支那ノ領土主權ノ完全ナル独立ヲ尊重スヘキ精神ニ立脚シ一ツノ覺書ヲ日本ニ送り旅順大連返

一六三 一六四 一六五

還ノ希望ヲ表シ並ニ商議開催ノ決定ヲ要求シ其回答如何ニヨリ更ニ第二ノ策ヲ定ムベキナリ若シ今日ニ至リ支那ガ何等ノ声明又ハ提議ヲ為サザレバ日本ハ之ヲ既定ノ權利固有ノ領土ト認ムルニ至リ將來ノ交渉ハ更ニ幾多ノ困難ヲ生ズ之ヲ要スルニ此ノ事ハ寧ろ外交上ノ懸案トナルトモ決シテ黙認又ハ放棄スルヲ許サズ今後如何ナル時期ヲ問ハズ世界ノ風潮ヲ利用シ必ズ支那ノ希望ヲ貫徹スル時機ニ達セザルベカラズ云々

前電ニテ本意見ハ自發的ニ提出セリト述ベシモ此事實ハ顧外交総長ノ諮詢ニ答ヘタルモノニテ顧維鈞自ラ交渉ノ意アルハ疑ナク本件ニ就テハ外交部内ニ於テハ絶対秘密トナシアルモノナレバ更ニ探查ノ歩ヲ進ムル為當分発表ハ見合サレ度シ尚原文ハ電文写シト共ニ更ニ郵送ス

一六六 十一月二日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国衆議院ノ所謂二十一箇条無効決議ニ関シ

報告ノ件

附記 十一月一日中国衆議院ノ所謂二十一箇条無効決議ノ件

一括附議シ提議人張樹森、劉汝晏ヨリ各提議ノ理由ヲ説明シ満場一致ヲ以テ之ヲ決議案ト為スコトトシ議長ヨリ「日支二十一箇条協約及交換文ノ無効ヲ国会ニテ決議シ之ヲ内外ニ宣布スヘク政府ニ咨請スルコト」ヲ表決ニ附シ「日支」ノ上ニ民国四年五月ノ文字ヲ附スルコトトシテ多数ヲ以テ通過セリ

張樹森提議ノ原案左ノ如シ

衆議院議員張樹森以下二十名ノ提出案

日支協約二十一箇条ハ民国四年日本カ欧州大戦ニ乗シ最後ノ通牒ヲ以テ脅迫要求シテ成立セル條約ナリ此條約ハ国ヲ辱メ國權ヲ損シ地ヲ失ヒ利ヲ棄テ引テハ亡國ニ至ルノ一種ノ暗示タリ、吾國人之ヨリ痛心疾首シ亟ニ此ノ條約ヲ廢除セント欲シ數年來機會ニ遇フ毎ニ即表示スルトコロアリタリ唯華盛頓會議ニ於テ吾國ヨリ取消ヲ提議セルモ結局通過セズ終ニ取消ノ機會ヲ留保スルニ止マリタリ此條約ノ効力ハ究竟如何ノ狀態ニアルカ頗ル研究ヲ要ス吾國方面ニ在リテハ留保ヲ聲明シテヨリ以後ハ全ク一種ノ否認ノ態度ナリ然ルニ日本方面ニ在リテハ則實際此條約ヲ認メ一部分ノ取消ヲ聲明シタル外仍未ダ廢止セザルノ狀態ナリ此條約ノ經

第六八五号 (十一月三日接受)

支那衆議院ハ十一月一日二十一箇条條約ノ無効ヲ決議シ之ヲ中外ニ宣布スル様政府ニ建議セリ

右ニ付外交部參事唐在章ハ東方通信ノ横山ニ對シ本件衆議院ノ決議ハ素ヨリ重要ナルモ議會ノ建議ト雖政府ハ必ズ之ヲ採用スルノ義務アルモノニアラズ併モ本件ハ重要ナル外交問題ナルヲ以テ政府ハ外交關係ヲ斟酌シテ取捨ヲ決スルヲ要スト述ベタルニ付横山ハ貴官ノ意味ハ二十一箇条條約中例ヘハ關東州還附問題ノ如キニ付テハ右決議ヲ採用シテ問題ト為スノ意ナリヤト突込タルニ唐ハ斯ノ如キ具體的問題ニ付テハ答弁スルヲ得ズトテ明答ヲ避ケタル由ナリ御參考迄

(附記)

中国衆議院ニ於テ日中協約無効宣布決議ノ件

十一月一日午後一時衆議院第三期第五号常會開會、出席議員三百零二人、議長吳景濂主席、

議事日程第三案附議後、議員錢崇澍ノ緊急動議ニ依リ、第七案張樹森提出ノ「日支協約二十一箇条協約無効宣布咨請案」及劉汝晏提出ノ「日支二十一箇条協約無効宣布案」ヲ

過ヲ細査スルニ從來未タ國會ニ交付セズ而シテ現在政府カ取消留保ヲ聲明シタル以上再ヒ國會ニ交付スルノ理由ナシ但シ吾國カ華盛頓會議ニ於テ取消ヲ主張シタル際未タ國會反對返附ノ根拠ヲ得サリシニ因リコレヲ重要ナル理由トナサザリシガ當時同情アル友邦ハ皆之ヲ惜ミタリ非常國會ハ屢々宣言アリタリト雖モ正式國會ハ從來未タ意思表示アラズ夫レ國會ニ條約締結同意權アリ條約ニ對シ國會同意セザレバ形式備ハラズ當然無効ナリ而カモ此條約ハ久シク一面ニ於テハ否認シ一面ニ於テハ承認スルノ狀態ニアリ此亡國條約ヲシテ今尚効力ノ有無曖昧ノ中ニアラシム、如斯ハ實ニ國家ノ資格ヲ維持シ利權ヲ挽回スル正当ノ処置ト云フベカラズ本員此案ニ對シ再三熟慮シタル結果最後ニ一解決ノ手續ヲ得タリ即チ最善ノ弁法トシテ本院ヨリ決議シ議院法第七十六條ニヨリ該條約ノ原文及ヒ其ノ經過ヲ政府ニ要求シテ文書調集ノ形式ヲ取り之ヲ本院ニ交付セシメ本院ハ即之ヲ參議院ニ移交スルコトヲ議ニ付シ即日該條約ノ無効ヲ宣布スヘシ右ノ如キ弁法ハ一ハ亡國條約ノ懸案トシテ未解決ニアルヲ免カレ一ハ民意代表機關タル國會ノ否認セル証拠ト為スヘシ、即無効ヲ宣布スルノ可否敬ンテ公決ヲ

五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ関スル件

乞フ

提出者 張樹森

連署者 白常潔、王兆離、劉治洲

朱家訓、趙 恒、黃贊元

林長民、高增融、姚守先

馬英俊、孟 森、王 樞

杜成鎔、陳世祿、張雅南

周太烈、周克昌、范熙壬

楊詩浙、万 鈞

一六七 十一月十四日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

中国政府ニ対シ二十一箇条廢棄ノ如キ申出ヲ

為サザル様警告方訓令ノ件

第五九六号 極秘

關東州租借地ニ関スル露支間ノ条約カ明年三月ヲ以テ満期トナルヘキヲ好機トシ北京政府ハ近キ将来ニ於テ大正四年ノ日支条約廢棄方ヲ帝國政府ニ申入レムトストノ情報ハ予而ヨリ耳ニセル所ナルガ帝國政府トシテハ本件ニ関シ仮令北京政府ヨリ右ノ如キ申入ニ接スルコトアルモ直ニ之ヲ拒

一六七

二〇〇

絶スル決心ナルコト勿論ナルガ日支兩國ノ国交ヲ惡化セシムルハ望マシカラザルニ顧ミ可得出来バ北京政府ヲシテ早キニ臨ンデ我決心ヲ承知セシメタル上如此申入ヲ為スニ至ラシメザル方得策ナリト思考セラルルニ付貴官限リノ思付トシテ至急外交総長ニ会见ノ上左記ノ趣旨ヲ以テ警告ヲ与ヘラレ其ノ応答振電報アリタシ

記

過般衆議院ニ於テ所謂二十一ヶ条廢止ノ決議ナルモノ成立シ更ニ參議院ニ回附セラレタル趣ナルガ先般大總統ガ日本新聞記者ニ対スル談話中關東州租借地ヲ以テ「アルサス、ロレーヌ」ニ比較セラレタルコトアリ國務總理モ又關東州還附説ヲ抱持セラルル趣ニテ又最近外交総長モ國際通信記者ニ対シ關東州租借地ニ関スル支那政府ノ態度ハ巴里講和會議及華盛頓會議以來一貫シテ變更セザル旨述べラレタル次第ハ國際通信ニ依リ全世界ニ伝播セラレ居ル処北京政府ハ二十一ヶ条廢棄方申入ヲ為サントスルガ如キハ信ズル能ハザル所ナルモ万一政府首脳部ノ意向ニシテ果シテ右ノ如クナルニ於テハ日支国交ノ衝ニ当レル本使トシテ兩國国交前途ノ為メ深ク憂慮セザル能ハズ巴里講和會議ノ際支那

全權ハ日支条約不承認ヲ楯トシテ遂ニ「ヴェルサイユ」条約ノ承認ヲ拒ミ又華盛頓會議ノ際該条約廢棄ノ提議ヲ為サントシタルモ日本全權ハ之ニ応酬スルコトヲ拒絕シテ所謂二十一ヶ条問題ニ対スル日本政府ノ態度ヲ明告シタリ右兩回ノ會議ニ於ケル支那側ノ態度意向ニシテ今日ニ於テモ尚變更セザルモノトセバ本件ニ関スル日本朝野ノ決心ニ顧ミ日支ノ国交ハ到底円満ナル能ハズ日本ハ過去數年間支那ニ於ケル排日風潮ニ拘ラズ泰然トシテ寛容ノ態度ヲ保持シタルノミナラズ山東条約及目下商議中ノ細目協定其他各条件ノ處理方ニ就テハ勿論支那ノ向上發達一般福祉ノ増進ニ関シ日本ノ朝野ガ常ニ具体的好意ヲ示シ以テ親善關係ノ増進ニ貢獻シツアル次第ナリ然ルニ支那側ニ於テ一向之ヲ感受セズ所謂隨ヲ得テ蜀ヲ望ムノ態度ニ出デンカ日本國民ノ忍耐力ニモ自ラ限リアリ断ジテ日支条約廢棄ノ如キ申入ニ

應ゼザルベシ
惟フニ支那トシテハ須ラク華盛頓會議ノ結果得タル利益ヲ正当ニ利用シ内政ヲ釐革シテ国運ノ恢復ヲ図ルヲ急務トスベキナリ事此処ニ出デズ大局ヲ忘レ友邦ノ感情ヲ刺戟スルガ如キハ支那ノ為メ深ク之ヲ惜マザルヲ得ズ國際交渉問題

五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ関スル件

ノ中ニハ協定可能ノモノト不可能ノモノトアリ此ノ兩者ヲ區別スルハ政治家ノ明智ナリ日支条約廢棄問題ノ如キハ日本トシテ到底承允スベキ筈ナク即チ協定不可能ニシテ同時ニ由々數結果ヲ貽スノ部ニ属セリ本使ハ貴總長ノ眼識克ク之ヲ洞見スルヲ確信スルモノナリ

一六八 十一月十八日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

英人顧問シンプソンノ關東州租借地還附ニ付

テノ意見書訳文送附ノ件

附屬書 右意見書訳文

機密第五〇九号

大正十一年一月十八日

在支那

特命全權公使 小幡西吉 (印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

英人顧問「シンプソン」ガ關東州租借地還附ニ付提

出セル意見書ニ関スル件

本件ニ関シテハ往電第七〇〇号ヲ以テ報告致置候処右意見書訳文入手致候ニ付茲ニ及送附候間御査閱相成度申迄モナ

一六八

二〇一

ク右ハ絶対ニ他ニ漏洩セサル様御取扱相成度候也

(附屬書)

英人顧問「シンブソン」ノ旅大還附ニ関シ提出セル意見書
訳文

旅順大連租借案ハ支露兩國一千八百九十八年條約ニ拠リ二十五
十五年ヲ以テ還附期ト為セリ日露戰爭ノ結果「ポーツマ
ス」條約ニヨリ日本ノ手ニ移轉シタルモ日本ノ獲得シタル
權利ハ露國カ支那ヨリ取りタル權利中其行使未了ノ部分ヲ
繼承スルヲ以テ限度トス故ニ旅順大連ノ租借ハ露國ノ獲得
セル權利ノ日數ヲ控除シ一千九百二十三年三月ヲ以テ期限
トスヘキモノトス日本ガ要求スル所ノ其期限ヲ延長シテ九
十九年トナスハ全ク確タル根拠ナク就中一千九百十五年五
月ノ交換文書ノ如キハ日本ガ強制的手段ヲ以テ脅迫的性質
ニ依リ得タルモノニシテ未ダ支那國民ノ承認ヲ經ザルノミ
ナラズ國際的承認ヲモ經ザルモノナリ又國會ニ於ケル該交
換文書不認ノ決定書及華府會議ニ於テハ之ヲ保留シ將來機
會アラバ討論ヲ繼續スヘキ聲明ヲ為シタルニ就テ之ヲ觀ル
モ該交換文書ハ明ニ未決ノ案件ニシテ未決ノ案ナルモノハ
既定ノ事実ト為スヲ得ズ又領土完整、主權獨立ハ華府會議

右ハ米國朝野ノ空氣ヲ反映セルモノト思ハルルガ此上トモ
本問題ニ對スル米國輿論等御探査ノ上隨時電報アリ度シ
在歐各大使ニ電報アリ度シ

(附記)

支那政府顧問米國人ノ行動ニ關スル件

(十一月十四日亞細亞局第一課調)

一、所謂旅大租借地ノ問題ハ今後益々重要ノ問題トナリ輿
論ハ從テ紛糾スベキガ茲ニ最モ憂フヘキ傾向ハ日本ノ一
部人士特ニ狹量ナル武斷派乃至煽動政治家等ニ於テハ支
那政府ニ於ケル米國人顧問ノ行動ヲ以テ直チニ米國政府
及人民ノ意嚮ヲ反映スルモノナリトシ進ンデ所謂二十一
箇條取消問題ヲ惹起シタルハ全ク米英ノ背後ニアリテ支
那政府ヲ煽動シタル結果ナリトシ旅大租借地問題ハ即我
日本ノ滿州ニ於ケル地位ニ對スル支那及英米ノ挑戰ナリ
日本ハ此ノ問題ノ為ニハ充分ノ決心ヲナシ以テ支那及英
米ヲ相手トシ場合ニ依リテハ戰爭ヲモ辭セザルヲ要スト
ノ極端論ヲ為シ以テ我人心ノ攪亂ヲ來サムトスルコト之
ナリ

二、然ルニ又一方支那政府ニ傭聘セラレアル米國人ノ行動

ノ原則ニシテ凡ソ正式ノ條約ニ依リテ占領セル土地ト雖亦
之ヲ還附スルノ必要アリ況ンヤ國際上懸案ト認ムルモノハ
支那トシテハ實ニ返還ヲ要求スルノ權利アリ而シテ華府會
議原則ノ精神ニ基キ先ツ對外表示ヲ為スヘキ其表示ノ方法
タルヤ一方日本ニ向ヒテ返還ヲ協議スヘキ方法ト其協議ノ
期日ヲ定ムヘキ議案ヲ提出シ一方華府會議ニ向ヒテハ參加
各國ニ此事ヲ聲明シ支那トシテノ希望ニ對スル了解ヲ求ム
ルヲ要ス

一六九 十一月二十日

内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利代理大使宛(電報)

二十一箇條問題ニ對スル米國政府ノ態度ニ付

通報及米國輿論査報方指示ノ件

附記 中國政府顧問米國人行動ニ關スル件

第六一三號

過日晚餐ノ席ニテ「ワレン」大使ハ二十一箇條問題ニ付松
平局長ニ對シ支那ハ實ニツマラス事ヲ初メタルモノナリ英
國政府ガ之ヲ取り挙クルコト万ナカルヘク米國政府モ何等
之ヲ支持スル様ノコトナシ特ニ「ヒューズ」並ニ自分ガ任
ニアル間斷ジテ之ヲ許サザル可シ云々ト話シタルコトアリ

ハ單ニ自己ト支那政府トノ關係ノミヨリ出ヅルモノトハ
云ヘ極メテ不謹慎ナルモノアリ為メニ彼等ノ行動ハ排日
ヲ之レ事トスルガ如ク思惟セラレ易キハ否ム可カラズ
三、斯クノ如クニシテ日本ノ一部輿論ノ傾向ハ之等米國人
ノ行動ニ依リテ益々惡化セラルヘク為メニ折角華盛頓會
議以來轉換確立セラレタル日米ノ關係並東洋ノ平靜ヲ再
ヒ害スルカ如キコトナキヲ保セザルノミナラズ少クトモ
我國國際的地位ノ受クル打擊尠少ナラザルベシ要スルニ旅
大問題ニ付テハ常ニ輿論ノ平靜順調ナルヲ期シ出來得ル
丈ケ問題ヲ極限シテ苟クモ之ガ為メ我國國際關係ヲ障害ス
ルガ如キコトヲ慎シマザルベカラズ

四、此ノ點ハ米國政府ヨリ言フモ同様ニシテ恰モ日米共通
ノ利益ナルニ依リ適當ノ機會ニ於テ米國大使ヘ此ノ辺ノ
事情ヲ篤ト虚心坦懷ニ説明シ支那ニ於ケル傭聘米國人ノ
行動ハ全然米本國政府ノ意嚮ニ出デタルモノニ非ズ又米
國人一般ニ何等沒交渉ナルコトヲ米國出先若クハ中央ニ
於テ世間ニ明カニシ所謂輿論攪亂者ノ乘ズルニ余地ナカ
ラシムルコトヲ慫慂シテハ如何ト思考セララル

一七〇 十一月二十七日 内田外務大臣ヨリ
在旅順伊集院閣東長官宛(電報)

米國大使近日滿洲方面ニ旅行ノ趣ナルニ付同
大使ト面会ノ際ハ二十一箇条問題ニ関スル我
政府ノ決意ヲ徹底方配慮アリ度旨希望ノ件

附記 二十一箇条問題ニ関スル在本邦米國大使宛覺書
案

第四二号

本月二十五日米國大使ト会話ノ折近日支那殊ニ滿洲方面視
察ノ考ナルガ其ノ用向ノ主眼トスル所ハ所謂二十一箇条問
題ニ関スル實地ノ見聞ニ在ル次第ニテ同問題ニ對スル日本
ノ意向ハ十分之ヲ了解シ居ルモ支那側ヨリ同問題提議ノ上
ハ相當風潮ヲ起スヘント予想セラルルニ付此際實地ニ臨ミ
本國政府方針確定ニ資スルコトト致度意向ナリ就テハ貴地
ニ於テ貴官ト篤ト面談致度旨申出デタルガ同大使ニ對シテ
ハ本大臣ヨリ是迄帝國政府決意ノ存スル所ヲ十分説明シ置
キタル次第ニ付貴官ニ於テ同大使ト面会ノ際ハ實地ノ情況
ヲ基礎トシ腹藏ナク所見ヲ披瀝シ、此ノ上共帝國政府ノ意
向ヲ徹底セシムル様御配慮相成度シ

貴官ハ十二月十日頃御上京ノ趣ナルガ同大使ハ本月三十日

州租借權ノ延長並ニ南滿州鐵道会社經營期限ノ延長ニ過ギ
ズシテ其他ノ些末ノ点ハ殆ト問題トナラザルニ至レリ、然
ルニ右關東州租借權並滿鐵營業期限延長ノ件ハ日支交渉ノ
經過ニ徴スルモ兩國委員ノ間ニ最迅速ニ且ツ滿洲ニ決定
セラレタルモノニシテ我關東州並滿鐵ニ關スルノ權利ハ過
去數十年來ノ我國民ノ平和の努力ニ依リ正當ニ且ツ完全ニ
日本ニ於テ保有シ居ルモノナルコトハ日本國民ノ確信スル
所ナリ

關東州租借權並滿鐵經營權ノ問題ハ、日支戰爭以來ノ歴史
ニ依リ我國民一般ニ對シ深刻ナル印象ヲ与ヘ居ル國民の感
情ノ問題ニシテ、若シ正當ニ獲得セル此種日本ノ權利ニシ
テ侵害ヲ蒙ルガ如キコトアランカ、輿論ハ忽チ動揺シ一般
國民ノ感情ハ決シテ冷靜ヲ維持スルコト能ハザルベシ如何
ナル日本政府ト雖モ此權利ニ就テ他ヨリ挑戰ヲ受クル場合
ニ毫モ讓歩ヲ為シ得ル地位ニアラザルコトハ事實トシテ之
ヲ承認スルノ外ナク、此点ハ日本ノ國情ニ通曉セラルル米
國大使ノ充分領得セラレ居ル所ナル可シ

事態上記ノ如キニ拘ラズ、支那ニ於テハ衆議院ニ於テ關東
州租借權還附ニ關スル建議ヲ為シ、且ツ支那政府ノ政治顧

五 大正四年五月日中兩國締結條約ノ効力問題ニ関スル件

一七〇

頃当地出發ノ趣ニ付貴地ニ於テ面会ノ運ト相成ベシト思考
セラルルモノ一同大使ノ出發一兩日延期等ノ為メ行違トナ
ル事アリテハ甚タ遺憾ニ付兩三日位ノコトナラバ何トカ差
繰ラレ貴地ニ於テ会見ノコト取計フ様希望ス

(附記)

二十一箇条問題ニ関スル在本邦米國大使宛覺書案

大正四年日支交渉ニ依リ成立セル協定並交換公文ニ付テ
ハ、華盛頓會議ノ際我全權委員ニ於テ日本政府ノ意嚮ヲ声
明シ、以テ当初支那ニ對スル日本政府ノ原案第五項ノ要求
保留ハ之ヲ撤回シ、進ンテ南滿州及東蒙古ニ於ケル鐵道敷
設ノ為ノ借款及右地域ニ於ケル各種稅課ヲ担保トスル借款
ニ關スル優先權ヲ國際財業團ニ開放シ、尚南滿州ニ於ケル
政治財政軍事又ハ警察ノ顧問若クハ教官傭聘ニ關スル優先
權ニ付キ我主張ヲ撤回シタリ、而シテ前記日支交渉中ノ重
要事項タリシ山東問題ニ就テハ、華盛頓會議ヲ機トシテ日
支全權委員ノ間ニ其ノ大綱ヲ決定シ、更ニ最近北京ニ於ケ
ル細目交渉ニ於テ日支兩國間ニ滿洲終局の商議ヲ遂グ
ルニ至レリ、茲ニ於テ結局日支交渉ノ結果成立セル協定並
交換公文ニ依リ今日迄存在スル処ノモノハ、主トシテ關東

問タル「フアーガソン」等ノ米國人ハ、日支協定ニ關スル
總テノ効果ヲ破棄シ關東州租借權延長ヲ無効ナラシムヘシ
トノ意見書ヲ支那政府ニ進達セリト伝ヘラル、日本政府ハ
素ヨリ支那政府ノ政治顧問タル米國人ノ行動ハ單ニ其ノ個
人的見解若クハ其各自保有スル地位ニ基クモノニシテ、彼
等ノ行動ガ米國政府又ハ米國人民ノ意嚮ヲ反映スルモノニ
非ザルコトニ付疑念ヲ挾ムモノニアラズ、米國政府並ニ一
般人民ハ常ニ日本ニ對シ諄カラザル好意ヲ有シ、特ニ華盛
頓會議以來ハ兩國要路ノ努力ニヨリ益々日米間ニ友誼アル
了解ヲ進メツツアル状態ニシテ、之ニ對シテハ日本政府ハ
竊カニ兩國ノ為メニ且ツ世界平和ノ為メニ慶賀シ、尚今後
モ之ニ付一層ノ努力ヲ試ミント欲スル次第ナリ、然ルニ偶
々關東州租借地問題ニ關スル支那一部ノ政治的盲動ニ關聯
シ北京ニ於ケル米國政治顧問ニ於テ前記ノ行動ニ出デ之ガ
為メニ、我一部國民ニ誤解ヲ起サシメ以テ反動的煽動政治
家ノ利用スル所トナリ、依ツテ以テ本問題ニ敏感ナル我一
般輿論ニ對シ米國人顧問ノ行動ハ即チ米本國政府並人民ノ
真意ヲ反映スルモノナリトノ印象ヲ与フルカ如キハ、折角
今日迄ノ兩國政府ノ努力モ遂ニ一ツノ蹉跌ヲ見ルノ結果ト

一七〇

ナリ甚タ遺憾ニ感セラルル次第ナリ

上記ノ次第ニ付此点ニ付テハ帝國政府モ充分意ヲ用キ以テ日本國民ニ誤解ナカラシムルコトヲ期シツツアルモ尚適當ノ機會ニ於テ米國大使若クハ其他適當ナル米國側ノ人士ニ於テ北京ニ於ケル米國人顧問ノ行動ガ何等米國政府並ニ國民一般ノ意嚮ヲ正当ニ反映シ若クハ之等ト何等連絡ヲ有スルモノニ非サルコトヲ闡明セラレ以テ我輿論ノ平靜ニ資シ且ツ一部煽動家ノ乘ズル所ナカラシムルニ至ラバ是レ日本政府ノ努力ニ對スル甚大ナル援助トシテ深ク感謝ニ値スルト共ニ近年兩國間ニ益々顯著トナリツツアル友好關係ヲ増進シ且又華盛頓會議ノ光輝アル事業ヲ完成スルノ一助トトモナル可シト思考セラル、平素ヨリ内田伯爵トノ間ニ特ニ深厚ナル好意ヲ有セラルルニ顧ミ米國大使個人ノ參考トシテ茲ニ縷々腹藏ナキ意見ヲ吐露スル次第ナリ

一七一 十二月六日 在旅順伊集院閣東長官ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國大使ト懇談ノ要領報告ノ件

秘第二〇号 (十二月六日接受)

貴電第四二二号ニ関シ米國大使ハ予定ヲ變更シ当地ノ來訪ヲ

先トシ十二月五日奉天經由來着セルニ依リ本官ハ同大使ノ希望モアリ旁々家族のニ子息等ト昼餐ヲ共ニシ食後約二時間ニ亘リ時局問題ニ関シ懇談ノ機會ヲ得タリ要領左ノ通大使曰ク自分カ曩ニ日本ニ赴任セルトキハ日本ノ間ニ暗雲横ハリ動モスレハ危機ヲ醸スノ虞アリシコトトテ之ヲ一掃スルコトガ自分ノ重ナル希望ナリシナリ然ルニ幸ニシテ自分任中華府會議開催セラレ之ニ依リテ暗雲ヲ一掃シ兩國ノ關係改善セラルルニ至リタルハ自分ノ最欣幸トスル所ナリ而シテ自分ハ元來外交官ニアラズ此上日本ニ止マルモ外交上格別ノコトモナシ得ズト考フル一方ニ於テハ本國ニ要務モアリ旁々近ク帰國シタキ希望ヲ有シ居レリ夫ニ付自分ハ在任中是非一度支那ノ國情ヲ視察シタキ希望ヲ抱キ又其必要ヲ感シ居タルモ何分日支間ニ山東問題等交渉中ニテ無益ノ誤解ヲ招クヲ慮リ差控ヘ居リタルガ最近右ノ問題モ終結セル模様ナルニ依リ其機會ヲ以テ家族ヲ同伴シ表面全ク觀光ノ体ヲ装ヒ來遊ヲ思ヒ立チタル次第ナリト前提シ次第二十一ヶ條問題ヲ話題トシ伝フル所ニ依レバ本問題ハ昨今支那側ニ於テ漸ク具体化シツツアル模様ノ処自分ノ承知スル所ニ依レバ本問題ハ支那側ヨリ日本ニ向ツテ之ガ廃棄ヲ

迫ルガ如キ其根拠ニ乏シキモノト考フ何トナレバ所謂二十

一ヶ條條約ハ強要ニ依ルト云フモ右交渉ノ當時ニ於テハ主要ノ條項タル租借地及鐵道ノ期限延長ノ如キ何レモ日本ガ最後通牒ノ手段ニ出デザル前支那側ニ於テ之ガ承認ヲ与ヘタルモノニシテ(大使ハ此間其承諾ノ月日迄モ指摘セリ)

當時既ニ双方ノ意思ハ完全ニ成立シ居リタルモノト考ヘラル然ルニ今日ニ至リ支那側ヨリ之ガ無効ヲ主張スルガ如キ兩國ノ為メ寔ニ遺憾ニ堪ヘズ目下本問題ハ如何ニ發展シツツアリヤト問ヘルニ依リ本官ハ貴說ノ通ナリ本問題ノ發生ハ日本ニ取り迷惑至極ニシテ又支那ノ為メニモ不利益千万ト考フ目下ノ所ニテハ支那側ニ於ケル一般ノ反響案外少ナキヤニ認メラル其故ハ苟モ外交ノ何物タルヲ解スルモノハ本問題ノ無効ヲ真面目ニ考フルモノハアラズ支那有識者ノ心事既ニ然リ殊ニ本問題ノ中心人物タル顧維鈞ノ如キモ巴里會議ノ當時本官ヨリ本件ニ言及セシトキ同人ハ若シ山東問題ガ日本側ヨリ誠意ヲ以テ解決セラルルニ於テハ二十一ヶ條問題ノ如キハ支那側ヨリ之ヲ主張セズト言ヘルコトモアリ然ルニ現ニ山東問題落着セル今日若シ彼ヨリ主張シ來ルモノトセバ右ハ正シク第三者ノ後援ヲ必要トシ密ニ之カ

(脱)ヲ取り居ルモノト考フ

然ルニ本官ノ見ル所ニテハ如何ナル第三者ト雖モ進ンデ彼ニ援助ヲ与フル者ハ万無カル可シト信ズ從テ本問題ガ喧シクナレバナル程彼ノ立場ハ益々困難トナリ結局自縛ノ羽目ニ陥ルノ外ナカルヘシ孰レニセヨ日本トシテハ本問題ノ發展如何ニ論ナク一步モ退クノ余地ナキハ貴官御承知ノ通りニシテ又日本ハ朝野共ニ如何ナル犠牲ヲ払フモ斷ジテ応ズルコト能ハザル次第ナリト明言シタルニ大使ハ御尤モナリ昨今「ラインシュ」ヤ「ランシング」等ノ勢力ハ皆無ニシテ御懸念ニ及バズ殊ニ「ラインシュ」ノ如キハ甚タシク健康ヲ害シ居レリ又貴國朝野ノ意見一致セルハ当然ニテ恐ラク政友會憲政會國民黨ノ總テガ直ニ一致スルナラント言ヒタルニ由リ本官ハ其ノ通ナリ依テ貴官ニ望ム所ハ此ノ際能ク支那側ノ實狀ヲ視察セラレ度シト言ヒタルニ大使ハ能フ限り各方面ニ接觸シ殊ニ在支米國公使領事等ニハ本件ノ歴史ト貴官ノ談話要領ヲモ篤ト説明シ日本ニ歸リタル後ハ内田伯ヘ見聞ノ次第ヲ話シ又帰國ノ後ハ幸ヒ國務卿トハ親善ノ間柄ナレバ腹藏ナク思フ所ヲ申述べ多少ナリトモ參考ニ資スル考ヘナリト言ヒ次テ張作霖ノ態度如何ト言ヒ

タルニ付本官ハ同人ノコトニ付テハ自分ハ能フ限り常ニ注意ヲ払ヒ勉メテ内争ヲ避ケサスルベク間接ニ尽力シ居レリ支那ノ内争ヲ杜絶セシムルコトハ支那ノ為メ又第三国ノ為メ最モ大切ノ問題ニシテ現ニ露国「ソヴィエット」政府ハ漸ク其ノ勢力ヲ極東ニ張ラントスルノ形勢ヲ示シツツアリ、其ノ發展如何ハ独リ支那ノミナラズ日英米三国ニモ直接至大ノ關係アリ十分深キ考慮ヲ要スト考フト述ベタルニ大使ハ至極尤モノ說ナリ然ル処「ソヴィエット」政府ノ東支鐵道ニ對スル態度如何ト問ヘルニ付本官ハ右ニ付テハ張作霖ニ於テ殊ノ外懸念シ居ル模様ナリ依テ本官ヨリハ張ニ對シ決シテ支那側ヨリ挑発ノ態度ニ出デサル様注意ヲ与ヘツツアリ其所以ハ昨今露国側ノ勢力ヲ見ルニ自分ノ承知スル所ニテハ予テ想像ノ通赤軍中ニハ多數ノ独逸人アリ精巧ナル最新式ノ武器ヲ有シ又烏拉爾方面ニ在ル兵器廠ノ如キハ全部独逸人ヲ聘用シ所要兵器ヲドシシ製造シツツアリ（此情報ハ曩ニ哈爾濱滿鉄公所長古沢ガ本官ニ齎ラセルモノナリ）斯カル次第ナレバ張作霖ヨリ露国側ニ對シ迂闊ニ暴力ヲ以テ對抗セバ由々敷大事ヲ惹起スルノ惧アリ能フ限り衝突ヲ避ケサスルコト最モ肝要ナリ而シテ露国側ニ於テ

モ第三国トノ交渉ヲ恐レ迂闊ニ暴力ニ訴ヘテ南下シ来ルガ如キコト無カルヘク目下ノ処裏面ニ於テ東支鐵道及哈爾濱地方ニ勢力ヲ扶植セントシ腐心シツツアルモノノ如シ斯ノ如ク支那トシテハ此種ノ大問題カ極東ニ迫リツツアル次第ナレバ出来得ル限り自国ノ統一ヲ促進シ其目的ヲ達成スルコト焦眉ノ急務ナリ又吾人トシテモ露国勢力ノ南下ハ其背後ニ独逸ノ勢力伏在シ居ルコトヲ會得シ充分ナル考慮ヲ払フノ要アリト信ズト述ベタルニ大使ハ篤ト傾聴シタル後貴說ノ通実ニ重要ノ問題ナリ自分モ此機會ヲ以テ親シク觀察ヲ遂グルコトトスベシト答ヘ右ニテ會談ヲ終リテ大連ニ向ヒ同地一泊六日奉天ヲ經テ北京ニ赴ク予定ナリ尚奉天ニモ一泊スル由ナルモ情報ニ依レバ在奉天米國總領事ハ大使ニ對シ張作霖ニ面會セヌ方宜シカルベキ旨ヲ勸告シツツアリトノコトナリ滿鉄沿線ノ状況等ニ就テハ松岡理事ヲ大使ニ隨行セシメ篤ト説明ヲ与フル様取計ヲヒ置ケリ本電甚ダシク冗長ニ亘リタルモ御来示ノ次第モアリ時節柄御参考迄ニ電報ス本官ノ印象ニ依レバ大使ハ日本ニ對シ公平ナル感想ヲ抱キ好意ヲ有シ居ルモノト認メラル北京、奉天、天津へ郵送セリ

一七二 十二月八日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

奉天訪問中ノ米國大使ノ動靜報告ノ件

第四四九号

（十二月八日接受）

米國大使六日夜大連ヨリ来奉七日朝北京ニ向ケ出發シタリ張作霖トハ面會セザリキ暫ク懇談ノ機會ヲ得タルヲ以テ滿州ノ事情中我施設ノ要綱ヲ説明シ偶々吉林總領事ヨリ接手シタル馬賊襲來ノ電報ヲ示シ其序ヲ以テ昨年及本年ノ馬賊被害表ヲ大使ニ手交シ（大使ノ求ニ依リ）鐵道及其附近ニ在ル内外人生命財産ノ保護ハ到底不完全ナル支那軍隊若ク

ハ警察ノ力ニ信賴スル能ハザル次第ヲ間接ニ説明シ置キタリ大使ハ滿鉄社員ノ案内ニ依リ忠魂碑医科大学其他附屬地一般ヲ見物シ其支那町ト非常ニ懸隔アルコトヲ驚嘆シタリ今回ノ滿洲旅行ニ依テ彼ハ日本ニ對シ好意的印象ヲ得タル模様ニ見受ケタリ尚伊集院長官ト非常ニ有益ナル談話ヲ交換シタル旨語リ居タリ

公使閣東長官ニ郵報セリ

註 本件文書ハ主トシテ『松本記錄』ニ拠レリ。

『松本記錄』トハ松本忠雄元政務次官ノ保管セン筆写本ニシテ現在外務省外交史料館所藏ノモノナリ。